

令和6年 11 月 27日

浜田市議会議長 笹田 卓様

議員名 岡本 正友

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期間（移動日を含む）

令和6年 11 月 11 日（月） ～ 令和6年 11 月 13 日（水）

2. 視察先

（1）網走市 健康福祉部 健康推進課(保健センター内)本橋課長、藤森係長
同席議員：永本浩子網走市議会議員

（2）札幌市 環境局 環境都市推進部 環境エネルギー 樫山課長

3. 視察内容

網走市 ① 網走市開業医誘致制度について

② 網走市移動型医療サービスについて

札幌市 ① カーボンニュートラルの取組み「公共施設群」について

4. 調査経費 88,021 円

（経費内訳 交通費：73,111 円、 宿泊費：14,910 円）

5. 調査研究活動の概要

（別紙のとおり）



調査研究活動の概要

➤網走市の概要について（令和 6 年 10 月 31 日現在）

人口：32,290 人 世帯：17,906 世帯 面積 470.84k m²

（近隣自治体：北見市、網走郡大空町、斜里郡小清水町）

- ・網走市の「網走」という地名の由来は諸説あり不明であるが、いずれもアイヌ語に漢字にあてたものとされている。
- ・オホーツク総合振興局東部に位置し、オホーツク海に面している。丘陵地が多く、市街地は網走川河口付近とその南側に続く海岸丘上の平地にある。文化財として、史跡「モヨロ貝塚」や国指定重要文化財「博物館網走監獄内」等がある。
- ・現在は人口減少・少子高齢化社会を迎え、市民、団体、企業、行政などが、さまざまな形で連携を図り、一体となって、まちの持つポテンシャルを最大限に生かしながら、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めている。

➤視察目的

現在の浜田市の医療環境は厳しく医師の確保に苦心している。当市より人口規模が小さくまた厳しい環境で開業医師の誘致に成功している、また、必要な医療を提供していくためには、入院や医師の負担が大きい従来の訪問診療以外の「新たな診療手段を構築」する必要があるため、移動型医療サービスに取り組んでいる先進事例を学び当市に活用していきたい。

（１）網走市の開業医誘致制度について

➤背景（目的）

網走市にはセンター病院（網走厚生病院）を含む 4 つの病院と 15 の診療所があるが、人口 10 万人あたり耳鼻咽喉科を除き全ての診療科は全国的に比べると下回っている。

医師偏在指数は、北海道は 233.8 で多数区域であるが、北見市、網走市その他 8 町の北網 2 次医療圏では 144.1 と大変厳しい少数区域であるため、医師の確保が喫緊の課題であると考えている。（浜田医療圏は 238.7）その中で平成 31 年度から開業医誘致助成制度をとってきて、4 つの診療所を開設した。（令和 2 年は 2 件、令和 4 年は 2 件）また、市内の看護師の充足に対する調査では約 4 割の医療機関が不足していると看護師不足が深刻な状況でもある。こうした状況の中、令和 6 年度から医師の働き方改革が行われていて、休日夜間での緊急医療体制で全般的に影響をあたえていることも危惧している。

市として必要とする開業医を誘致するとともに、医師会や市内の医療機関と情報共有して課題解決に向けた議論を進め医療提供体制の確保に取り組んでいる。



網走市 保健センター



➤開業医誘致推進事業（網走市開業医誘致制度）概要

- 1：目的 地域における医療体制の構築を推進するとともに、市民の健康及び増進を図ることを目的に、市内に診療所を新たに開設する方に対し経費の一部を助成する。
- 2：対象者 ①地域医療への関心が高く、積極的に医療活動を行い、寄与する方
②診療所を継続して 10 年以上開業する見込みがある方
③市長が認める診療科の診療が可能なる方（診療科偏在もおきているため）
- 3：助成対象 土地・建物・医療機器等の取得及び賃貸に対して助成を行い、助成金の限度額は 5,000 万円（取得は一括、賃貸は分割）
- 4：実績 4 件（内科・循環器内科、小児科・耳鼻咽喉科、消化器内科、脳神経・内科）
- 5：開業医誘致助成審査委員会 医師会代表者 2 名以内、学識経験者 2 名以内
各種団体 代表者 1 名 計 5 名以内で審査会を設置。

➤質疑応答

- Q：助成対象者は道内か⇒日本全国対象
 Q：5,000 万円の財源は⇒一般財源とふるさ寄附
 Q：開業された医師の年齢は⇒50 代が多く 40 代は 1 名(3 名は市内の方)
 Q：学識経験者とは⇒東京農大
 Q：各種団体の代表者とは⇒商工会議所

（2）網走市移動型医療サービス（実証）について

➤背景（目的）

地域医療を担う医師数の不足の一方で高齢者等に対する医療ニーズが拡大している。自家用車が主要な移動手段である当地区において、免許返納後の高齢者の通院のための移動

負担は大きい（不安も大きい）。よって、従来の外来・訪問診療以外の新たな診療手段を構築する必要性がある。医療を提供する一つの「選択肢」として実施するもの。

➤サービスの概要

- ② デジタル技術の活用（網走市デジタルファースト宣言＋デジタル技術の活用）
- ② 患者のもとへ医療モビリティが出向き医師は病院にしながら遠隔診療を実施（全国 10 例目、北海道では初の取り組み）

➤R5 年度・6 年（7月時点）度実証協力者利用者アンケート結果《オンライン診療》
利用者の満足度は高く、オンライン診療でも対面診療と同等の医療の質を確保できた。
問診・会話は問題なく実施、継続利用の意思は多く、サービスニーズを確認できた。
患者の通院・移動負担軽減に寄与。

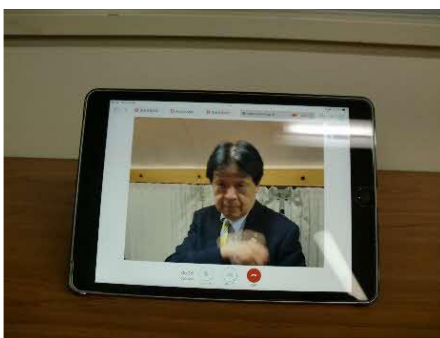


令和 6 年度中の実装（本格）運行をめざしている。

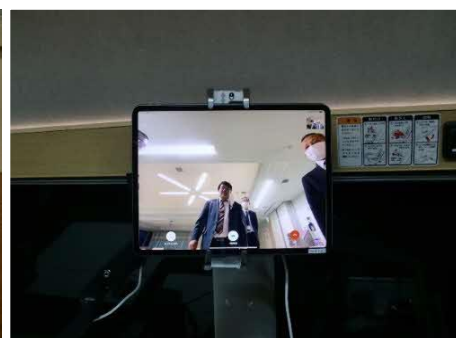
＊マルチタスク車両（ハイエース車両をベース）に、独自架装を実施
愛称は「IKI MaaS（いきまーす）・・・写真参照



車内で患者がタブレットで診療を受ける



オンライン診療（患者）



（診療所の医師）



➤所 感

今回の網走市での視察を通じ、地域医療の課題解決に向けた先進的な取組を深く学び取ることが出来ました。特に開業医師誘致制度では、医療資源の偏在や高齢化が進む中で地域医療体制の維持・強化を目指す姿勢に感銘を受けました。財源としてふるさと寄附を活用する工夫や、地元出身医師の独立支援が効果を挙げている点は、浜田市に参考になると感じました。一方で、かかりつけ医制度や、まめネットなど地域医療連携の不足が課題として残る印象も受けました。

また、移動型医療サービスは、デジタル技術を活用し、医師不足や高齢者の移動負担という課題を的確に補う画期的な取組でした。特に、オンライン診療と対面診療が同等に保たれている点や、患者満足度の高さは注目に値します。このようなサービスは、交通インフラの後退や免許証の返納が進む浜田市においても非常に有効であり、今後の導入を視野に入れるべきと感じました。

➤札幌市の概要について（令和6年4月1日現在）

人口：1,965,305人 世帯数：997,411世帯 面積：1,121.26K㎡

- ・札幌市は、厳寒の石狩の原野に北海道開拓の拠点として創設されて以来140年の間に道庁所在地および石狩振興局所在地。政令指定都市となり、10の行政区が置かれている。北海道の行政・経済・文化の中心地であり、道内および三大都市圏以外の国内で人口最多約197万人を擁する大都市へと急成長した世界的にもまれな都市である。
- また、歓楽街・すすきのは、東京・新宿、福岡・博多の中州と並んで「日本三大歓楽街」と称され全国的に有名である。

➤視察目的

浜田市はカーボンニュートラル宣言をしているが目立った取組がない。
取組を進めるにあたり、先進的な札幌市の事例を学び、再生エネルギーの公共施設における活用の拡大を目指していきたい。

➤背景（目標）

札幌市は、年平均気温が100年あたり約2.5℃の割合で上昇している。厳しい温室効果ガス削減策をとらなかった場合、21世紀末の年平均気温は20世紀末と比べて約4.9℃上昇すると予測されているため、現在、化石燃料からの温室効果ガス排出量が多いため、2050年目標として、排出量が現在よりも大幅に減少している実質ゼロ（ゼロカーボン）とする。そのために、2030年目標として温室効果ガス排出量を2016年比で55%削減。目標達成のためには、エネルギーの有効利用と再生可能エネルギーへの転換を進め、これまで以上に削減ペースを上げる事が必要となる。（国の目標46%よりも高い目標にして取り組む）



札幌市議会 本会議場



大型モニターで取組の説明を受ける

➤目標に向けた施策・取組について

5つの施策

（対象者別に①市民 ②事業者 ③市役所と取組を分ける、以下番号で取組数を表示）

1：徹底した省エネルギー対策—積雪寒冷地で、他地域に比べて冬期の暖房使用によるエネルギー消費が大きく、住宅やビルの断熱性の向上、効率的な暖房・給湯機器への転換の取り組み。

- ①暖房・給湯機器のエネルギー源転換の促進、住宅エコリフォーム補助制度、次世代住宅
- ②ZEBやZEH-Mの省エネビルや集合住宅の設計支援、ゼロカーボン推進ビル(見える化)
- ③市有施設の省エネルギー化と電力見える化機器設置

項目 13 に対し①：4 ②：8 ③：2

2：再生可能エネルギーの導入拡大—屋根置き型太陽光発電や蓄電池の導入を促進している。道内の豊富な再エネを活用する。

- ①再エネ省エネ機器導入補助金制度と再エネ機器導入初期費用ゼロ事業補助金制度
- ②道内連携による再エネ電力導入拡大、再エネ共同購入プロジェクト
- ③市有施設・未利用地の太陽光導入、再エネ共同購入プロジェクト、水素モデル街区

項目 12 に対し①：6 ②：7 ③：5

3：移動の脱炭素化—走行時に Co2 を排出しないゼロミッション自動車である FCV・EV の普及に力を入れている。

- ①②③ゼロミッション自動車の導入支援、公共交通機関の利用促進
- ③公用車へのゼロエミッション自動車導入(全ての公用車 2030 年までに次世代自動車)

項目 3 に対し①：2 ②：2 ③：2

4：資源循環・吸収源対策—食品ロスの効果や森林の保全及び整備、道産木材の活用。

- ①②③食品ロス対策、道産木材等の活用
- ③森林の保全及び整備

項目 3 に対し①：2 ②：2 ③：3

5：ライフスタイルの変革・技術革新—脱炭素に向けたライフスタイルのあり方などを話し合える様々な機会を提供。環境保全活動の中心を担う若者の育成。関連分野の技術について市内業者による開発を支援とビジネスの創発に向けた整備。

- ① 児童・ユース、小中学生への啓発、出前講座、気候変動タウンミーティング、企画展
- ② エコメンバー登録制度、環境報告書展、新製品・新技術開発支援
- ③ 環境マネジメントシステムの運用(札幌市役所の環境負荷の低減に取り組む)

項目 15 に対して①：10 ②：5 ③：2

➤脱炭素先行地域に関する取組

2022 年 11 月、エネルギー事業者や大学などと共同提案で応募し、都心部を中心に産官学連携で積雪寒冷地のモデルとなる取組を進めていくことが評価され、脱炭素先行地域に選定。

➤気候変動への適応策

影響があると考えられる分野・項目として、自然生態系、農業、自然災害、健康、産業・経済活動・都市生活・水環境・水資源(緩和策⇔適応策の両輪)特に熱中症対策

➤環境首都・SAPP RO を目指して

2008 年 環境都市・札幌宣言～2015 年 温暖化対策推進計画策定～2020 年 ゼロカーボンシティ宣言～2022 年 脱炭素先行地域に選定～2024 年 北海道・札幌 GX 金融・資産運用特区

➤質疑応答

Q:先行地域に選定されたことによる交付金は⇒国からは総額 50 億円。(全然足りない)

Q:市民、議会での説明は⇒東日本大震災後に取組を考えてその度に説明。理解はある。

Q:住宅やビルなどの建設に対して脱炭素化として進んでいるという確認は出来ているのか
⇒建築物環境配慮制度 (CALBEE 札幌) により確認を行っている。(5 段階の格付け)

Q:市民の出前講座やタウンミーティングの取組は⇒一番の取組は例年、子どもたちが、環境問題について楽しく学び、体験できるイベント「環境広場さっぽろ」を札幌ドームで開催。

Q:水素の生産と活用は⇒生産はまだ無い、定置式水素ステーションをまちの中に設置。

Q:蓄電池の補助と災害時の電力の確保は⇒自己消費型であるが 1 台上限 100 万円である。
電気自動車を非常用電源として活用しているが、市内の充電機器は全て有料である。

➤所 感

今回の札幌市視察では、カーボンニュートラルを目指した先進地的な取組を学ぶ貴重な機会を得ました。特に、2050 年までにゼロカーボン達成を目標に掲げ、国の削減目標を上回る数値(2030 年までに 2016 年比 55%削減)を設定し、市全体で脱炭素化に向けた具体的施策を進めている姿勢に感銘を受けました。

断熱性向上や効率的な冷暖房機器の普及、再生可能エネルギーの積極導入といった寒冷地特有の課題に対する対策は、浜田市にも参考になると感じました。また、食品ロス削減や森林整備、若者育成を含むライフスタイルの変革など、多分野にわたる包括的なアプローチは地域全体の意識向上を促す効果が大きいと感じます。

特に注目すべきは、「脱炭素先行地域」に選定された取組で、産官学連携による積雪寒冷地モデルの構築がすすめられている点です。浜田市でも再生エネルギーの利用拡大を図るうえで、こうした先進事例を積極的に取り入れるべきだと再認識しました。

一方で、財源やインフラ整備に課題が残る点も示唆されました。総額 50 億円の交付金では、十分でないという札幌市の現状は、同様の施策を進める際の大きな壁となるでしょう。特に水素エネルギーの実用化や、災害時電力確保のための蓄電池活用については、札幌市でもまだ発展途上であるため、今後の事例を注視したいと感じました。

札幌市の取組は、浜田市がカーボンニュートラルに向けた道筋を描くための大きな参考となります。今後、再生可能エネルギーの活用拡大や地域に則した脱炭素施策を推進し、持続可能な都市づくりを目指す必要性を改めて感じた視察でした。